

夏季企画展 天誅組の変145年・明治維新140年

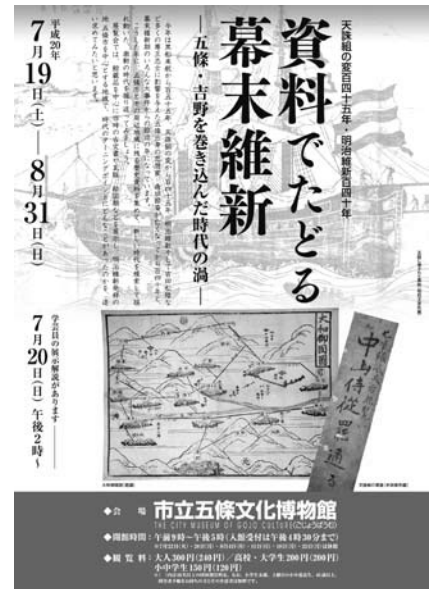
「資料でたどる幕末維新—五條・吉野を巻き込んだ時代の渦—」

平成20年7月19日(土)開幕

- 会場 市立五條文化博物館3階特別展示室
企画展は8月31日(日)まで開催します
(期間中の7月22日(火)と28日(月)、8月の毎週月曜日は休館します)
- 学芸員の展示解説 7月20日(日) 午後2時から
- 申込・問合せ先 市立五條博物館 ☎24・2011

市立五條文化博物館友の会 会員募集

- 歴史に興味のあるみなさん、一緒に勉強しませんか？
市内・市外を問わず広く募集しています。年5回程度の館内研修・館外研修を行っています。
- 年会費：2,000円
- 申 込：090・4645・8628(千本)
(申込は随時受け付けています)



新町と松倉豊後守重政

五條代官所の設置

五 條地域の発展の大きな転換点の1つをなすのが、寛政7(1795)年の五條代官所の設置です。初代代官は河尻甚五郎(春之)で、当初は大和国内の宇智郡・吉野郡・宇陀郡などの約5万石の幕府領を管轄し、のち一万石が加増されます。最後の代官は約7万石を支配する中村勘兵衛です。陣屋が設置された場所の五條村と須恵村・新町村は陣屋元村として、5~7万石の村々の中心として発展することになります。

代官所は、全国の約400万石の幕領支配のために各地に配置されましたが、手附・手代をはじめ足輕・仲間など約40人前後の人的構成で運営されました。文久3(1863)年の天誅組の変で五條代官所が襲撃を受け、幕末の幕府支配に大きな影響と衝撃を与え、また慶應4(1868)年正月の戊辰戦争の勃発早々に明治新政府側の鷲尾侍従によって五條代官所が接収されたのは、幕府支配の象徴的存在だったからです。

全国に50前後ある代官所の中で、五條代官には代官としての経験者が任命されるなど有能な代官が派遣されています。幕府の学問吟味の試験を受けてその学識を買われて代官となって、後勘定吟味役・松前奉行(河尻がこの奉行の時、間宮林蔵による間宮海峡発見が実現します)・持弓頭へと昇進河尻甚五郎を筆頭に、五條では郷学の主善館を設立し、日本三大農政家の一人で大蔵永常の出版を支援し、山形県寒河江では住民によって天保6年に鎮徳碑が建立された池田仙九郎、学問吟味試験でトップクラスとなって表彰を受け奥石筆から代官になって78歳の現職のまま五條で死去して二見の生蓮寺に墓のある山上藤一郎、大塔村廉においてその住民への善政によって矢嶋大明神として祀られた矢嶋藤蔵など五條代官は多士にわたります。水戸黄門の「助さん・格さん」によって「懲らしめ」を受けなければならない「悪徳代官」のイメージからは遙かに遠いようです。

(新町と松倉豊後守重政400年記念事業実行委員 藤井正英)

代官名	赴任年	離任年	前 歴	後 歴	家 禄	備 考
河尻甚五郎	寛政7(1795)*①	享和2(1802)	信濃中野代官	西丸納戸頭	250俵	享和2. 12布衣、文化4. 諸大夫の地位
池田仙九郎	享和3(1803)	文化7(1810)	大坂代官	出羽柴橋代官	150俵	主善館設立。
辻 甚太郎	文化7(1810)	文政5(1822)	越後脇野町代官	摂津大坂代官	500石	辻氏は代々美濃郡代
竹内平右衛門	文政5(1822)	文政7(1824)	越後川浦代官		200俵	
矢嶋藤蔵	文政8(1825)	天保2(1831)	信濃中野代官	摂津大坂代官	現米80石	大塔村廉に矢嶋大明神
青山九八郎	天保2(1831)	天保6(1835)	評定所留役	越後柏崎代官	100俵5人	弘化4. 7布衣、安政6. 諸大夫
囊 笠之助	天保6(1835)	天保9(1838)	信濃中之条代官	在任中死去	160俵	天保9. 3. 25卒(桜井寺)
竹垣三右衛門	天保9(1838)	天保11(1840)	陸奥塙代官	摂津大坂代官	150俵	嘉永6. 12布衣、元治元. 諸大夫
小田又七郎	天保11(1840)	弘化4(1847)	人足寄場奉行	関東上郷代官	30俵	
山上藤一郎	弘化4(1847)	嘉永2(1849)	遠江中泉代官	在任中死去	70俵5人	嘉永2. 3. 23卒(生蓮寺)
内藤左衛門	嘉永2(1849)	安政5(1858)	細工頭	在任中死去	225石	安政5. 2. 24卒(本久寺)
松永善之助	安政5(1858)	文久2(1862)	出羽柴橋代官	死去(大坂)	15俵	
鈴木源内	文久2(1862)	文久3(1863)	信濃中野代官	在任中死去		文久3. 8. 17殺害(極楽寺)
中村勘兵衛	元治元(1864)	慶応元(1868)	陸奥塙代官		40俵	鷲尾侍従による接収
備考	*①については『幕領陣屋と代官支配』(西沢淳男著)が寛政六年を赴任年としているが、前の内藤代官から河尻新五條代官への郷村引き渡しは寛政7年5月27日である(柏田家文書)。					